

週報

こひつじ

第40巻 9号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

信じる者になりなさい

その二 神は天にあり

そういう私も悲観的な人間だ。人の目にさらされて、その子の親ある幼稚園の運動会でのことで、だつてつらい思いをしているに違いない。

障害物競走があった。その最後、私が悶々としていると、その子は平均台を渡ることだったが、他は、とうとう座り込んだ。きつとそれどもたちはみなとつくにゴール泣き出すだろうと私は思った。ルインしているのに、ひとりだけ、しかし彼は泣かない。やがて靴が何度やっても途中で落ちてしまと靴下を脱ぎ、はだしになると、もう一度平均台の上に立ち、歩き

観衆は溜息をつく。かわいそう、始めたのだ。人びとは固唾を呑んで見ていた。私に見ながら思った。彼らの目はただその子にのみ注が

四歳の子どもではないか。もう、彼らにやがて彼は渡り終える。その瞬

十分ではないか。先生が手伝って、間に、われんばかりの拍手がそのやれば、それですむことではない。会場に鳴り響いた。彼の勇気、挑

戦に對して、人びとは惜しみない声援を送ったのである。

私は何度やっても失敗するその子を見て悲観的だった。できるわけがないと。だから、なぜ手伝つてやらない、と幼稚園側の対応に不満だったのである。

しかし、イエスは、ここでも、「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と言われていたのではなかったか。

幼稚園の先生がたは、信じていたのだろう。その結果、あの感動が生まれたのである。

人生に困難はある。理不尽と思われることも起こる。

それでもなお人生を信じ、希望をもって生きよ、とイエスが言われるのはなぜなのか。

第一、われわれの人生を治めておられる方が天の父であるからだ。そこで悩む私たちにイエスは言われた。

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたたちがたの天の父がこれを養っている。

てくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたもので

はありませんか」（マタイ六の二六）「だから、あすのための心配は無用です」（マタイ六の三四）

ブラウニングは希望を歌った詩人として有名だ。人びとは彼を楽

天詩人と呼んだ。中学生のとき、私は国語の教科書でブラウニングの次の詩を、上田敏訳で読んだ記憶がある。紹介しよう。

時は春、

日は朝（あした）、

朝は七時、

片岡に露みちて、

揚雲雀（あげひばり）なのりいで、

蝸牛（かたつむり）枝に這ひ、

神、そらに知るしめす。

すべて世は事も無し。

季節は春で、一日の朝である。

時間は七時。

早い時間なので丘には露が落ちており、ひばりが高く舞い上がっていて、かたつむりが枝にはつ

穏やかな春の日を歌ったあと、作者は心の目を上に向ける。そのとき神が天におられ、この地上のすべてを治めておられることを思い、大きな平安に包まれるのである。

当時、これを読んで、とくに感動したという記憶はない。だが、のちにクリスチャンになり、再び読んだとき、それがいかに慰めに満ちた思想であるかを知ったのである。(続)

今日の礼拝

- 第一礼拝は午前10時から、
- 第二礼拝は午前11時から。
- 教会学校は午前10時から。
- 説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん、奏楽は吉岡裕美さんでした。

○説教は、長岡舞子さんが「聖書と時間」と題し、時間をどう使うかについて語ってくださいました。日常の当たり前の仕事を、たんだ

実した内容です。

んとやること、それがやがては、自分の人生の目的へとつながってゆくのではないかとのことでした。

○徳永重則・公子夫妻の長女めぐみさんと次女ののぞみさんが自己紹介してくださいました。めぐみさんは大阪から、のぞみさんは台湾留学から、それぞれ熊本に帰り、熊本の人となりました。クリスチャン二世の若者たちの参加が増えるのは、教会の将来を考えるとうれしいことです。ふたりのために祈りください。

先週の出席

第一礼拝が四九名、第二が三七名、合計八六名(男二八、女五八)。それに子どもが八名、合わせて九四名でした。

『こひつじ Jr』

二月発刊の『こひつじ Jr』第二三号の「あの人インタビュー」は古谷良司さん、「編集室からは尾頭貴美子さんでした。毎回、充実した内容です。

四月には、奈良県生駒市にある関西聖書学院(KBI)という学校に招かれ、そこで六回の授業をすることにしています。

学院舎監の富浦先生が、毎年のように卒業生にぼくの本を記念に贈っておられました。そこで今回は、ぼくの話をもっと直接聞いてもらいたいということのようです。

最近の学生とは五〇歳ほどの年齢差がありますから、はたしてぼくの話が彼らの心に届いてくれるか心配ですが、最善をつくしたいと思っています。お祈りください。

KBI訪問

早朝の散歩は六〇歳になって始まりましたから、もう一八年続いていることになりました。

でも公園の散歩はやや不満です。もう少し明るくなら、山の見える田園の道を歩くことができるのですが、いましばらくの辛抱です。田園の散歩で、ぼくの心を躍らせてくれるのは、やはり広い空と雲です。

ラスキンは「大空」と題する論文のなかで、

「空は、自然がその仕事のうちで、他の何よりも、人を喜ばそうと力をつくしている部分である」

と言っています。まさにその通りだと思います。

尾崎喜人も雲が好きでした。こんな詩を書いています。

散歩と空と雲

ごらんなさい。

頭の上を、あの高いところを。私たちの魂の

欲しいとあこがれているものを残らず与えてくれるような

七月の夕暮れの

美しい空、

美しい雲ですね。